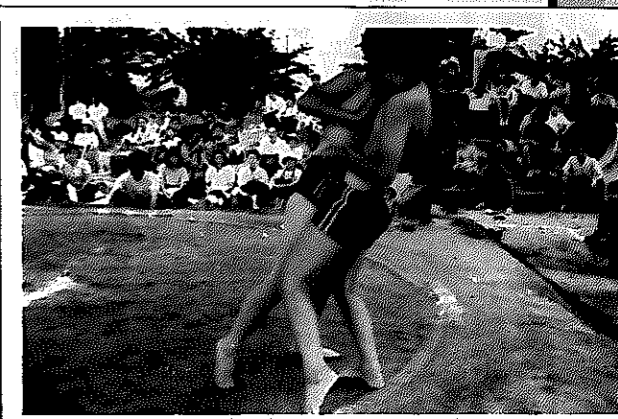


## 国技館目指し熱戦

わんぱく相撲白根場所

(白根青年会議所が主催した「第一回わんぱく相撲白根場所」が六月二十三日、小林小学校土俵場で行われました。この大会は、全国の青年会議所が協力し開催しているもので、全国大会は国技館で行われます。白根では初めての開催で、青年会議所のメンバーは、運営方法などを学ぶため、各地の大会を視察。

大会には、小学校四年生から六年生の児童百十三人が参加。学年別の個人戦、団体戦に、体格の違いなどもあるとせず、精いっぱいぶつかり合いました。大会の結果は十九ページをご覧ください。

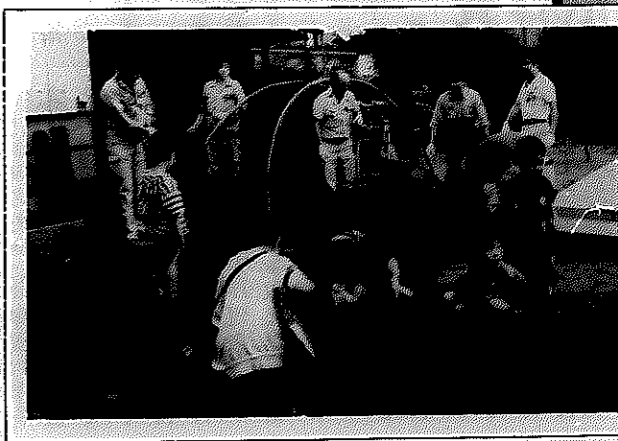


## おじさん砂をありがとう

建設委員会 青年部

六月二十八日、白根建設業協会青年部の皆さんが今年も市内十三の保育園に川砂を寄付。また、四ツ興野保育園では園庭整備に汗を流しました。鉄棒やぶらんこの下が平らになり、瞬く間に砂場に大きな山ができる。子供たちは大喜び。「おじさん、ありがとう」と、手作りのクッキーと、レイをプレゼントしました。

荏原会長は「川砂の寄付も今年で十回目になります。子供たちが喜んでる姿を見たり、かわいいプレゼントをもらったりすると、やっぱりうれしいですね。毎年続けていきたいと思います」と話していました。

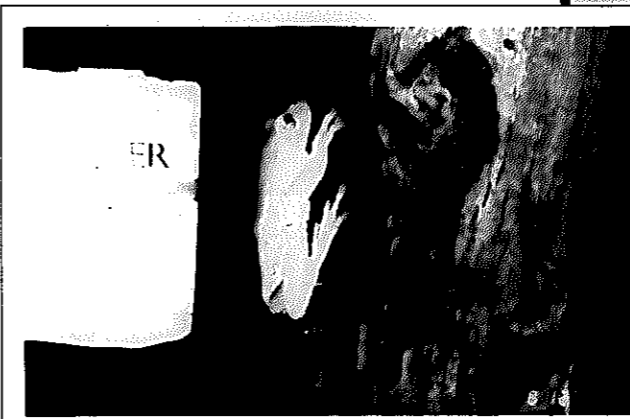


## 朝うとうと気持ちで

東萱阿部さん モリアオガエル

木の上に住み、泡状の卵を枝や草に産み付けるモリアオガエル。最近あまり姿が見られなくなりました。

東萱場の阿部源一郎さんの裏庭にも以前はたくさんモリアオガエルがいましたが、今年は卵が一方所。七月初めにふ化しました。「下田村の友人が珍しいと驚いて。子供が小学校や保育園でも飼おうとオタマジャクシを持っていきまして」と阿部さん。「写真は昨年撮影したのですが、木の上にいるので、間近に見たのは初めて。このままではいづれいなくなるでしょうから、飼うという気持ちでいます」と話していました。

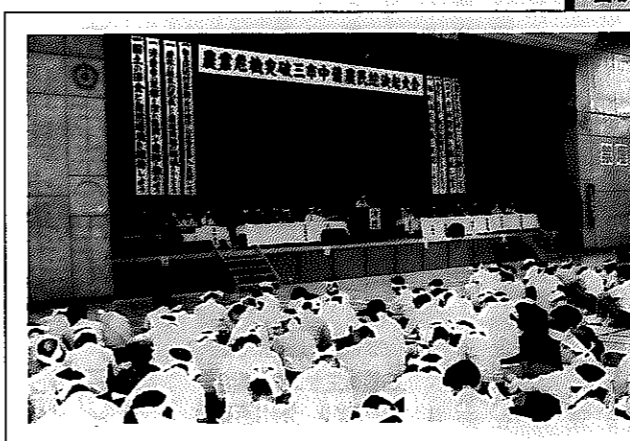


## 団結の輪を全国に拡大

農民総決起大会

米市場開放阻止、食糧堅持などをスローガンに「農業危機突破三市市浦農民総決起大会」が、六月二十四日カルチャーセンターで開かれました。これは、三市中浦米価要求対策協議会が主催したもので、約一千二百人の農民が参加しました。

大会では「コメ市場開放阻止に関する決議」「現行価格以上の米価実現に関する決議」など七つの決議を採択。その後、白根市代表が「生産者と消費者の連携の下に安全な食糧の生産に励み、団結の輪を全国に拡大させよう」との大会宣言を読み上げ、大きな拍手を浴びました。



## 時のたつのも忘れず

小林地区公民館 ちぎり絵講座

小林地区公民館のちぎり絵講座。第一回目の講習が七月四、五日、公民館で行われました。今回の題材は夏を感じさせる朝顔、アジサイ、スイレンなど。参加した人たちは口々に「楽しいですよ。あつという間に時間が過ぎてしまいます」と話しながらも手を休めません。昨年から続けて受講している人が多く、手さばきも見事なもの。二日間の講習で見事な作品が完成しました。作品は文化祭に出品される予定。

公民館では四季折々の作品を作ってもらおうと、続いて秋、冬、春にも講座を開くことにしています。



## ポプラ並木でまじりくくり

グリーンピア協議会

国道8号をポプラ並木にしようと結成された「グリーンピア・ルート8推進協議会」では七月七日、並木の除草と清掃を行いました。参加したのは協議会員と沿線の商店主や会社員などの五十人ほど。

「地域に植えてあるものは自分たちの財産。自分たちのものは自分たちで守る」という意識がまじりくりにつながる」と、青年会議所の高橋さん。ポプラ並木が地域おこしの起爆剤になってほしいと期待を寄せます。協議会では今後も定期的に除草や防除、せん定などを行う予定で、多くの市民の参加を呼び掛けています。



## 信濃川の川底で見学会

大島頭首工

大島頭首工見学会が、六月二十三日から隔週三回にわたり行われました。これは、信濃川下流農業水利事務所が、事業の内容を多くの人に知ってもらおうと計画したものです。

大島頭首工は、五年三月の完成を目指し白根郷、田上郷、加茂郷の四千五百畝の水田へ農業用水を供給するため、信濃川の水をせき上げ、濁水期でも安定した取水ができるよう建設されています。川の中の工事は、今年十二月で終了の予定です。

七月七日には、約二百人の見学者が訪れ、川底から頭首工を興味深そうに見上げていました。



## いい汗、たっぷり!

県身体障害者体育大会

県身体障害者体育大会白根地区大会が七月七日、カルチャーセンターで開かれました。この大会はレクリエーションを通じて、体力の増強を図りながら楽しんでもらうと毎年行われているもの。市レクリエーション協会の協力で、玉入れやビン釣り競争などの競技が行われました。

日曜日ともあって、家族も応援に訪れ「いい汗、頑張れ!」と、かわいい声援を送るちびっ子の姿も。本市をはじめ、新潟市や西蒲原郡から参加した約三百人は、ハンディキヤップを感じさせないハッスルプレイを披露していました。

